

「開放特許」で取引先支援

近畿経産局と連携

【大阪】奈良中央信用金（奈良真田原本町）が知財ビジネスで大手企業と地元取引先企業の橋渡しに成功した。開放特許を活用し、新製品の開発を進める。8月23日に関係者が集まり、ライセンス契約の調印式が本店で開かれた。同信金は資金面や企業紹介でも応援していく。

奈良中央信金

県内第1号

近畿経済産業局は8年前から中小企業支援で独自に知財ビジネスマッチング事業を始めた。地域金融機関と連携し、大企業が持つ開放特許と中小企業を引き合わせることで地元企業の新事業展開につなげる。

ライセンス契約を結んだのはオフィス家具大手のイトーキと、TOTOやLIXILグループにユニットバスの設置などをOEM供給している葛城工業（奈良県広陵町）、その協力会社の



オフィス家具大手のイトーキの開放特許を活用し新製品開発に乗り出す取引先企業の代表（写真⑤⑥）

近畿経済産業局の矢島秀浩・地域経済部長は「1件でも多く成功事例を生み出すため金融機関と連携し、新事業創出に取組むたい」と話し、奈良中央信金の高田知彦理事長は「契約をスタートとして良い製品を世に出すよう頑張っている。われわれも支援していく」とエールを送った。

マッチング事業では昨年からはワークショップ研修会を設けた。大企業が技術を説明し、開放特許を使い新商品開発やビジネスモデルの可能性を探ることでマッチングの精度を上げる。そこに参加したのがライセンス契約を結ぶことになった2社だ。

イトーキが開放するのは「起立補助椅子/自動調整タイプ」という特許。椅子に座ったり立つ際に、バネを使って動きをサポートする。

葛城工業の吉岡弘修社長は「高齢者向けに段差をうまく上げるのを補助する製品を想定している」とイメージは固まりつつあるようだ。ただ販路については課題。高田理事は「県内はもろろん全

部の部長を講師に迎え、未公開企業の公募増資による資金調達について学んだ。同信金では「信金などの金融機関以外の資金調達方法を紹介することで取引先のファイナンスに幅が出れば」（営業統括部長菅野サトウ）と話している。



グレートカンパニーアワード 2019 金融初「顧客感動賞」

「と話した。自ら1日数件の融資先をたずね、毎朝7時から行員とミーティングを開き、「融資判断は最短1日、長く

健康経営実践事業所に認定 埼玉県信用金庫（埼玉県熊谷市）は8月26日、

横浜信金、しののめ信金

夏休みに「お金」を学ぶ



持参の1000円札で偽造防止を確認（横浜信金）



LINEキャラクター「ロン」も登場（しののめ信金）

いよいよ学期がスタートした。この夏も各地の信用金庫では、地域の子どもたちに「お金」について学んでもらおうと、工夫をこらしたイベントを開き、人気を集めた。

宿題にも役立つと

国の信用金庫のネットワークを活用したい」と話している。

あるようだ。ただ販路については課題。高田理事は「県内はもろろん全

と話した。自ら1日数件の融資先をたずね、毎朝7時から行員とミーティングを開き、「融資判断は最短1日、長く